

1. 重点目標

■建学の精神：戦後日本の再建・発展と平和で幸福な社会の建設のために、若い人材を育成し、地域を支える人材を育てる。

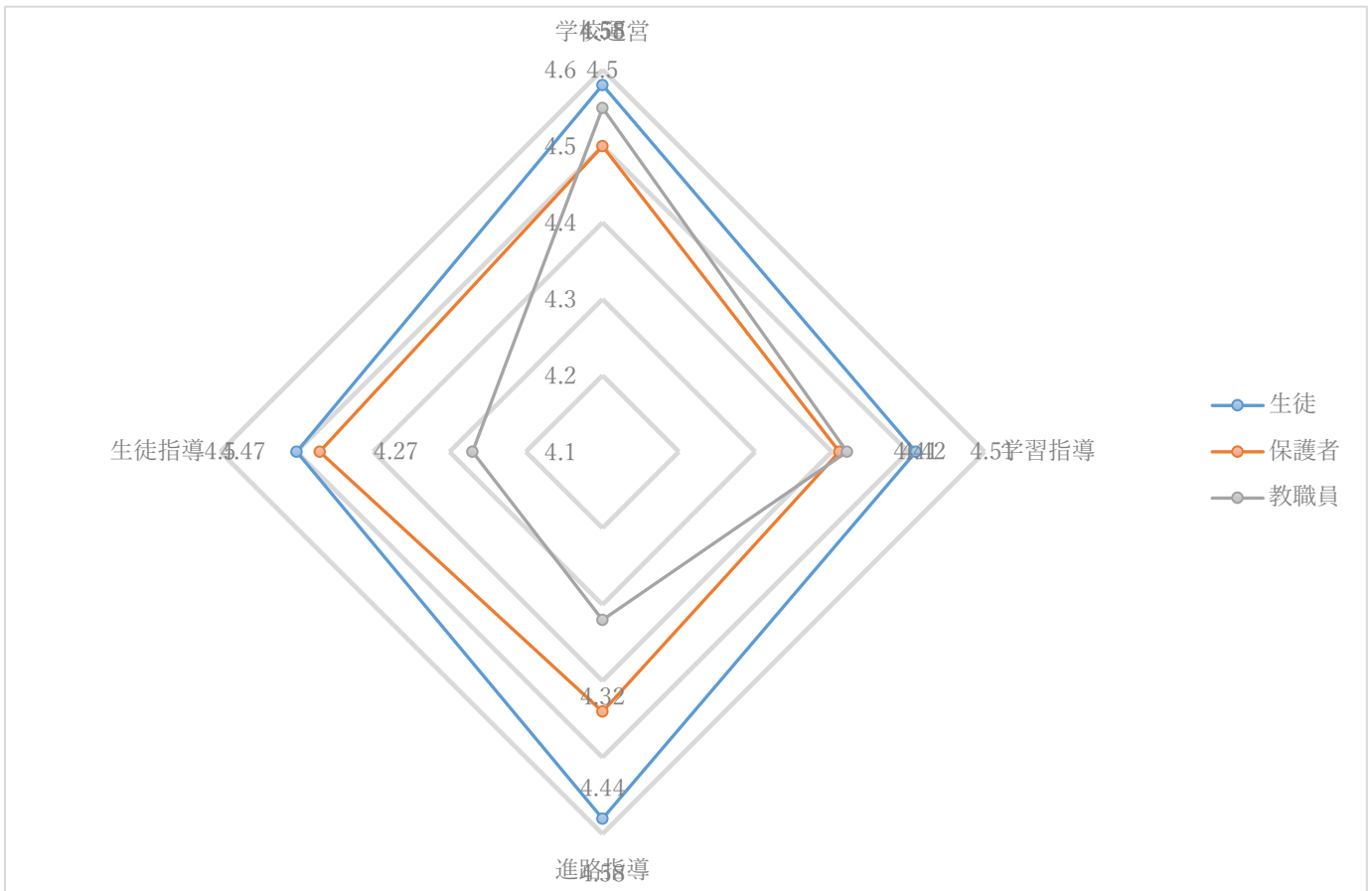
■教育理念：人間力を磨いて主体的自我を確立し、新しい時代感覚を持って社会に貢献する人間を育成する。

■教育目標：自ら学び、自ら考え、自ら行動する自立（自律）した人間を育てる。

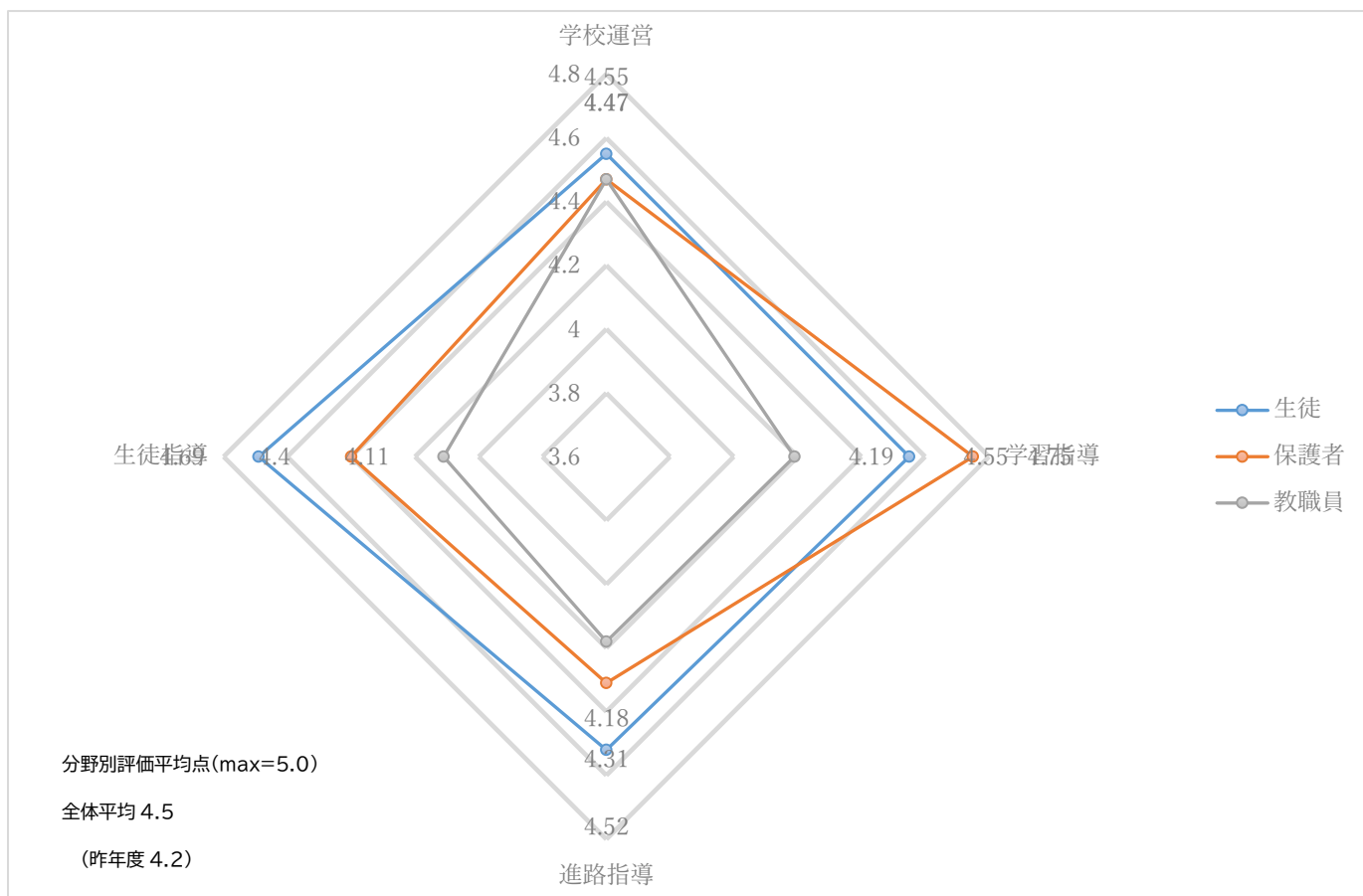
■コンピテンシーゴール

自己を磨く	言語・知識・情報を関連させて利用できる想像力を身に付ける。
	未来を切り開くためのテクノロジーの基礎的活用を身に付ける。
人とのコミュニケーションを図る	豊かな情報を持ちながら相手の意見を聞く傾聴力を身に付ける。
	柔軟に相手や状況に合わせて情報発信できる表現力を身に付ける。
社会と繋がる	社会の変化に対応し困難に挑戦できる知力・体力を身に付ける。
	将来にわたって自立して社会に貢献できる実行力を身に付ける。

【全体】



【新潟会場】



2. 学校自己評価—5段階評価—

【新潟会場】

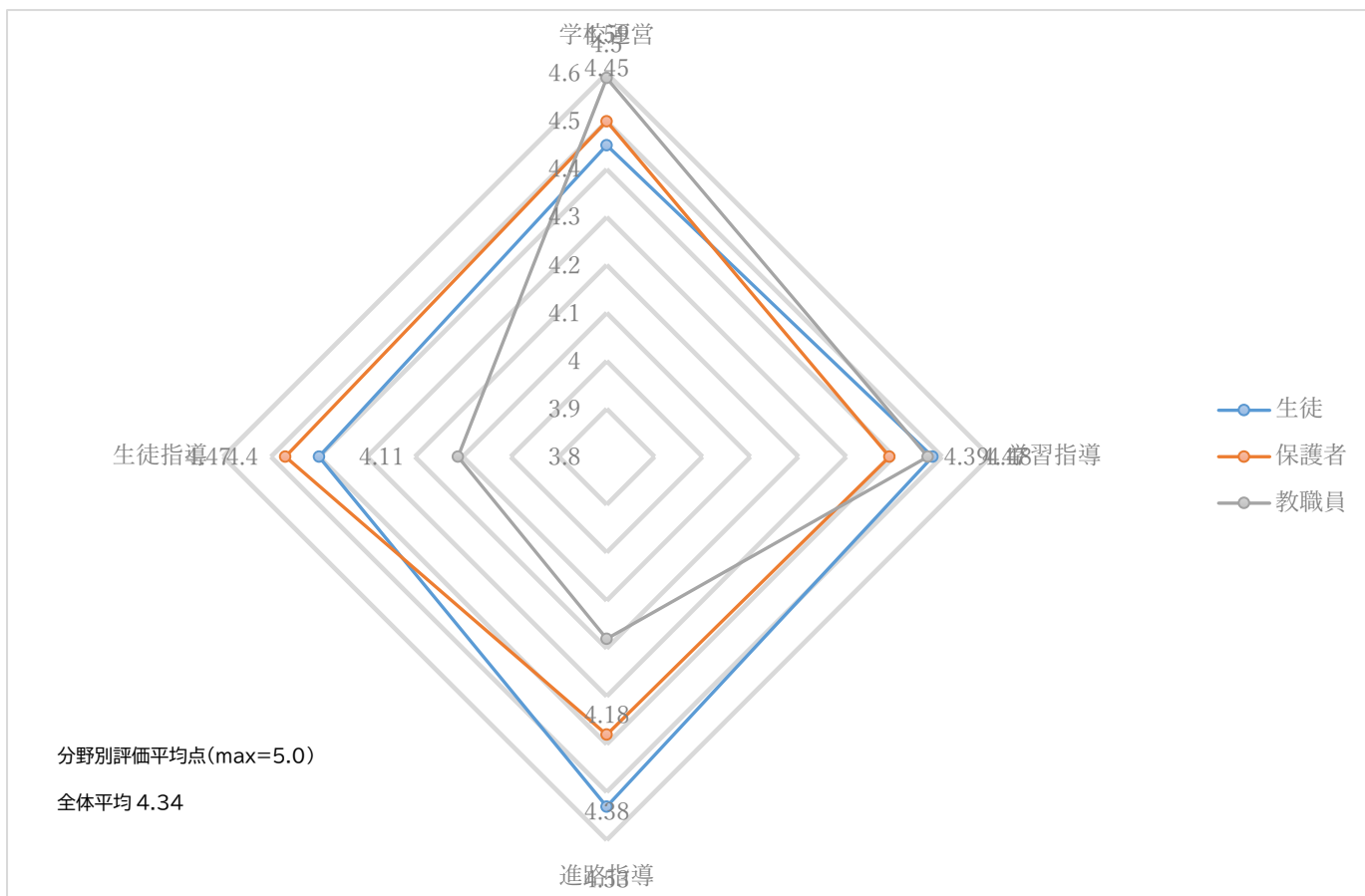
分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
<p>学校運営</p> <p><b>4.54</b></p> <p>生徒：4.59</p> <p>保護者：4.57</p> <p>教職員：4.47</p>	<p>生徒・保護者が安心・安全にスクーリングに参加できる環境を整備し、円滑な学校運営と学習機会の確保を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者が安心してスクーリングに参加できるよう、会場運営や安全面への配慮、情報発信の充実など様々な取組を継続して行ってきた。その結果、年間の出席率は82.8%と高い水準を維持しており、スクーリング参加に対する意識の高さが見られる。</li> <li>学校運営に対する満足度についても、8割以上の生徒が満足しているという結果となっており、安定した運営が実現できている。</li> <li>一方で、生徒数の増加に伴い時間割が複数展開されるようになったことで、生徒自身がどの時間帯に参加すべきか分かりにくいという課題が生じている。特に、通信制課程の特性上、自身で判断する場面が多い中で、情報の整理や理解に困難を感じる生徒が一部見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング実施の約1か月前に生徒個々に対応した個別時間割を作成し、配信する取組を行った。その結果、生徒および保護者の理解が深まり、参加に対する不安の軽減と円滑な行動につながり、高い出席率の維持につながったと考えられる。</li> <li>ICTを活用した通知やリマインド機能の導入により、情報の見落としを防ぎ、確実に伝わる仕組みづくりを進める。</li> <li>生徒数の増加に対応した柔軟な運営体制を構築しつつ、個々の状況に応じた支援を維持・強化することで、「安心・安全」と「わかりやすさ」を両立した学校運営を実現し、現在の高い出席率</li> </ul>

			と満足度を持続的な成果として定着させていく。
<p>学習指導</p> <p>4.39</p> <p>生徒：4.59</p> <p>保護者：4.38</p> <p>教職員：4.19</p>	<p>学習意欲の醸成と基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学び続ける力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会や個別面談を通じて、多様な進路に関する情報提供は適切に行われており、生徒・保護者ともに一定の理解を得ている。</li> <li>・キャリア教育の視点を取り入れた指導により、生徒の進路意識は徐々に高まっている。</li> <li>・一方で、生徒自身が主体的に進路を選択する力については十分とは言えず、受動的に情報を受け取る傾向が見られる。また、内部進学への理解が十分に進んでいないことや、オンライン進路支援の利用率が低いことが課題として挙げられる。今後は、3年間を見通した体系的な進路指導計画をより明確化し、生徒が段階的に進路意識を高めていけるよう支援する。進路指導を単なる情報提供にとどめず、「自ら考え決定する力」を育てる指導へと転換することが重要である。</li> <li>・内部進学については、大学との連携を強化しながら、具体的な進学モデルやメリットを示すことで、生徒・保護者の理解を深めていく。加えて、オンライン進路支援の活用を促進し、生徒が日常的に進路について考え相談できる環境を整備する。</li> <li>・生徒一人ひとりが自身の将来を主体的に描き、その実現に向けて行動できる力を育成することを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導の中心を「課題の遂行」から「学び方の習得」へと発展させ、生徒が自ら学習を計画・実行・振り返ることができる力、自己調整力の育成を重点的に行っていく必要がある。そのために、面接指導時間やホームルーム、個別面談を活用し、生徒一人ひとりの学習進捗を把握しながら、具体的な学習計画の立案指導と定期的な振り返りを組み合わせた継続的支援を行う。</li> <li>・オンラインコーチングについては、その活用目的を明確化し、「学習習慣の定着を支えるツール」として再位置づけることが重要である。単なる任意利用から、全生徒が活用することを前提とした運用へと転換し、日常的な学習管理や相談の場として機能させることで、より実効性の高い支援へと改善していく。</li> <li>・生徒が受動的に学ぶのではなく、自ら課題を見つけ、主体的に学び続けることができる状態を目指し、「基礎学力の定着」にとどまらない「学び続ける力」の育成へと学習指導を発展させていく。</li> </ul>
<p>進路指導</p> <p>4.39</p> <p>生徒：4.59</p> <p>保護者：4.40</p>	<p>計画的な進路指導を通じて、生徒が主体的に進路を選択し、将来に向けた行動を実践できる力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会や個別面談を通じて、多様な進路に関する情報提供は適切に行われており、生徒・保護者ともに一定の理解を得ている。</li> <li>・キャリア教育の視点を取り入れた指導により、生徒の進路意識は徐々に高まっている。</li> <li>・一方で、生徒自身が主体的に進路を選択する力については十分とは言えず、受動的に情報を受け取る傾向が見られる。また、内部進学への理解が十分に進んでいないことや、オン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、3年間を見通した体系的な進路指導計画をより明確化し、生徒が段階的に進路意識を高めていけるよう支援する</li> <li>・進路指導を単なる情報提供にとどめず、「自ら考え決定する力」を育てる指導へと転換することが重要である。</li> <li>・内部進学については、大学との</li> </ul>

<p>教職員：4.18</p>		<p>ライン進路支援の利用率が低いことが課題として挙げられる。</p>	<p>連携を強化しながら、具体的な進学モデルやメリットを示すことで、生徒・保護者の理解を深めていく。加えて、オンライン進路支援の活用を促進し、生徒が日常的に進路について考え相談できる環境を整備する。</p>
<p>生徒指導 4.36 生徒：4.58 保護者：4.38 教職員：4.11</p>	<p>教育方針に基づき、生徒一人ひとりの理解を深めるとともに、主体的な行動につなげる学校運営を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導においては、スクーリング（面接指導時間）への出席状況は概ね良好であり、約9割の生徒が指定された日程に登校し、学習活動に参加することができている。これは、生徒・保護者双方の学習に対する意識の高さと、学校側の継続的な働きかけの成果であるといえる。</li> <li>・面接指導時間や個別面談を通じて、ルールや規範についての確認を継続的に行ってきたことにより、基本的な生活習慣やマナーの定着は進んでおり、多くの生徒が落ち着いて学習に取り組める環境が形成されている。特に、学習に対する態度や姿勢においては、生徒・保護者ともに高い意識が見られ、全体として良好な状況が維持されている。</li> <li>・一方で、課題としては、生徒・保護者・学校間の連携体制の構築が挙げられる。通信制課程の特性上、生徒が学校外で過ごす時間が長いこと、生活状況や心理面の変化を早期に把握することが難しく、支援が後手に回るケースも見られる。また、集団の中でのコミュニケーション機会が限られるため、対人関係の形成や自己表現の面において個人差が生じている。</li> <li>・さらに、規範意識については一定の定着が見られるものの、「理解していること」と「主体的に行動できること」の間に差があり、自ら考え判断して行動する力の育成という点では課題が残っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、単なる規範指導にとどまらず、生徒が自ら考え行動できる力を育成するための指導へと発展させていく必要がある。そのために、面接指導時間やホームルームを活用し、生徒同士が関わりながら考える機会や、自分の意見を発信する機会を意図的に増やしていく。</li> <li>・また、連携体制の強化に向けては、ICTを活用した連絡手段の充実を図り、生徒の出席状況や学習状況、生活面での変化等を早期に把握できる仕組みを整備する。保護者との情報共有を定期的に行うことで、学校と家庭が連携し、一体となって生徒を支える体制を構築する。</li> <li>・「指導されて行動する生徒」から「自ら考え行動できる生徒」へと成長を促すことを目標とし、基本的な生活習慣の定着を基盤としながら、より高次の社会性と人間力の育成を目指していく。</li> </ul>

### 3. 学校評価結果

#### 【東京会場】



### 4. 学校自己評価—5段階評価—

#### 【東京会場】

分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営  <b>4.51</b>  生徒：4.45  保護者：4.50  教職員：4.59	学習意欲の醸成と基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学び続ける力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者が安心してスクーリングに参加できるよう、会場運営や安全対策、情報発信の充実に取り組んできた。その結果、スクーリングへの参加状況は安定しており、年間出席率は83.1%と高い水準を維持することができた。また、学校運営に対する満足度についても、8割以上の生徒が満足しているという結果となっており、全体として良好な運営が実現されている。</li> <li>課題としては、欠席が重なっている生徒が一定程度固定化しており、その生徒および保護者から少数ではあるものの不満の声が見られる点が挙げられる。特に、登校継続が困難な生徒に対する早期対応やフォロー体制については、さらなる強化が必要である。</li> <li>生徒数の増加に伴い時間割が複数運用される中で、教室移動の際に「どの時間帯に参加すればよいか分からない」といった混乱が一部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング実施の約1か月前に個別時間割を作成し、生徒ごとに配信する取組を行った。その結果、生徒・保護者の理解が大きく向上し、当日の混乱が軽減されるとともに、出席率の安定につながったものと考えられる。</li> <li>ICTを活用し、スケジュールの確認や変更情報が確実に届く仕組みを整えることで、情報伝達の確実性を高める。</li> <li>欠席が固定化している生徒に対しては、早期の段階から状況を把握し、個別面談や保護者との連携を通じた継続的なフォロー体制を構築する必要がある</li> <li>単なる出席管理にとどまらず、</li> </ul>

		<p>の生徒に見られた。この点については、情報の伝達は行っているものの、生徒への理解浸透の面に課題があることが明らかとなった。</p>	<p>心理的要因や生活状況にも配慮した支援を行うことで、登校へのハードルを下げ、参加を促していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数の増加に対応しながらも、一人ひとりに目が届く運営体制を維持することが求められる。そのため、情報共有や運営方法の見直しを進め、効率化と個別対応の両立を図りながら、「安心・安全」と「分かりやすさ」を兼ね備えた学校運営の実現を目指す。</li> </ul>
<p>学習指導</p> <p>4.45</p> <p>生徒：4.48</p> <p>保護者：4.39</p> <p>教職員：4.47</p>	<p>主体的に学び続ける力の育成と学習習慣の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の醸成と基礎学力の定着を重視した指導により、全体として学習への取り組み姿勢の向上が見られた。面接指導時間や課題学習を通じて、約8割の生徒が自ら学び続ける姿勢を意識し、主体的に学習に取り組む様子が見られるなど、学習意欲の向上という点では一定の成果があった。</li> <li>・教科書・映像教材・面接指導等を組み合わせた学習指導により、学習の重要性についての理解が進み、継続的に課題に取り組む生徒が増加していることも成果として挙げられる。これにより、基礎学力の定着についても概ね良好な結果が得られている。</li> <li>・すべての生徒において学習習慣が確立されているわけではなく、主体的に学習に取り組める層と、継続的な支援を必要とする層との間に差が見られる点が課題である。特に、学習計画を自ら立てて実行する力が弱い生徒に対しては、意欲喚起だけでは十分な成果につながらないケースが見られる。</li> <li>・オンラインコーチングについては活用が進んでいない状況にあり、その効果が十分に発揮されていない。利用の有無によって単位修得率に大きな差が見られていないこともあり、学習支援ツールとしての位置づけが十分に浸透していないことが課題である。</li> <li>・現状では「課題をこなす学習」とどまる傾向も一部に見られ、学習内容を自ら深めたり、主体的に応用したりする学びへの展開には課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の向上という成果を基盤としながら、「学びを継続する力」の育成へと指導を深化させていく必要がある。そのためには、生徒が自ら学習を管理できるよう、学習計画の作成・進捗確認・振り返りを一体化した指導体制の強化が重要である。</li> <li>・学習計画を単発的に立てるのではなく、定期的な見直しと面談を組み合わせることで、学習の進捗を継続的に支援していく。また、課題提出状況や学習時間などを可視化し、生徒自身が自らの学習状況を客観的に把握できる環境を整備することで、自己管理能力の向上を図る。</li> <li>・オンラインコーチングの活用については、その目的や効果を明確に伝えるとともに、単なる補助ツールではなく「学習継続を支える中核的な支援」として位置づけ直す必要がある。すべての生徒が日常的に活用できるよう運用の見直しを行い、習慣化を図ることで、より実効性の高い学習支援へと転換していく。</li> <li>・主体的学習を一層促進するため</li> </ul>

		<p>題が残っている。</p>	<p>には、単に課題をこなすだけでなく、「考える・理解する・活用する」学習へと発展させる必要がある。そのため、面接指導や学習活動において、生徒が自ら考え発言する機会を増やし、学びの質の向上を図る。</p>
<p>進路指導</p> <p>4.36</p> <p>生徒：4.53</p> <p>保護者：4.38</p> <p>教職員：4.18</p>	<p>計画的な進路指導を通じて、生徒が主体的に進路を選択し、将来に向けた行動を実践できる力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導においては、進路決定率が63.5%となり、一定の成果を上げることができた。進学においては、約6割の生徒が希望する進路の実現に至っており、個別面談や情報提供を通じた支援が一定の効果を発揮している。また、進路変更を行う生徒も見られたが、生徒自身が進路を再検討し、より適した選択を行った結果と捉えることができる。</li> <li>・就職について、希望者自体は少数であるものの、すべての希望者が内定を獲得し、希望する進路を実現できたという点で、個別対応による丁寧な支援が成果として表れている。一方で、課題としては、進路決定の時期が全体として遅い傾向にあることが挙げられる。特に、就職希望者においては、職種・業種の選定に時間を要し、結果として活動開始が遅れ、進路決定に向けた動きが後手に回るケースが見られた。</li> <li>・新潟・大阪会場と同様に、3年次早期に方向性を定めている生徒と、進路が未確定のまま時期を迎える生徒との間で差が生じている。さらに、1年次から在籍している生徒については計画的な進路指導が可能である一方で、途中入学・編入の生徒については、十分な進路意識の醸成や情報提供が困難なケースもあり、指導の難しさが課題として挙げられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定の遅れという課題に対応するため、進路指導の早期化および段階的指導の徹底が必要である。具体的には、1年次から「自己理解」「職業理解」「進路選択」のプロセスを体系的に指導し、早い段階から将来について考える機会を設けることで、3年次における意思決定の遅れを防ぐ。</li> <li>・就職希望者については、早期から職種・業種の理解を深める機会を設けるとともに、企業理解や自己分析を段階的に進めることで、活動開始時期の遅れを解消していく必要がある。単なる求人情報の提供ではなく、「選択できる状態をつくる指導」へと転換することが重要である。</li> <li>・途中入学・編入生に対しては、在籍期間の短さを考慮した個別支援を強化し、短期間で進路意識を高められるような集中的・段階圧縮型の進路指導プログラムを整備する。</li> <li>・進路変更が必要となった生徒に対しては、その背景を丁寧に分析し、「より適した進路選択」へとつなげる支援を継続する。個別面談の頻度や質を向上させるとともに、生徒が安心して進路相談できる環境づくりを強化する。</li> </ul>

## 生徒指導

# 4.33

生徒：4.40

保護者：4.47

教職員：4.11

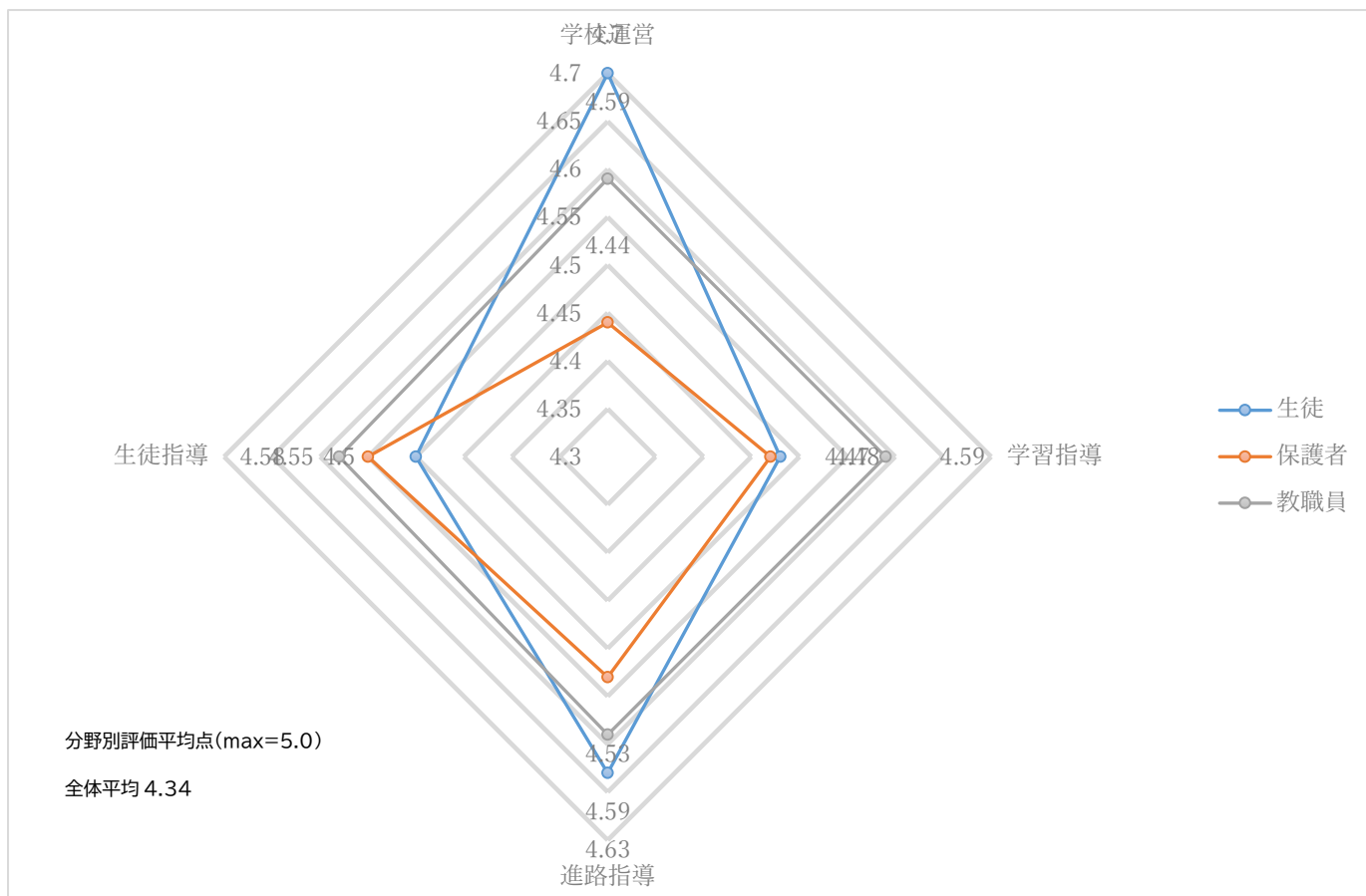
基本的な生活習慣と規範意識の定着を図り、社会の中で主体的に行動できる力を育成する。

- ・生徒指導においては、面接指導時間や個別面談、ホームルーム等を通じて、ルールや規範の確認を継続的に行ってきた結果、多くの生徒において基本的な生活習慣および規範意識の定着が見られた。また、協力校であるスクーリング会場への理解や感謝の気持ちを育成する指導も行われ、落ち着いた学習環境の維持につながっている。
- ・一方で、スクーリングへの出席状況については、一定の生徒は継続的に参加できているものの、継続的な登校が難しい生徒も一定数存在しており、約1割の生徒が安定した登校に課題を抱えている。  
この結果、学習機会の確保だけでなく、他者との関わりや集団の中での経験に差が生じている状況が見られる。
- ・通信制という特性上、対面での関わりのお機が限られることから、生徒間のコミュニケーション機会や対人関係形成の経験に差が生じやすいという課題もある。特に、登校頻度が低い生徒においては、自己表現や他者との関わりに不安を抱えるケースも見られる。
- ・規範意識そのものは一定程度育成されているものの、「理解していること」と「主体的に実行できること」との間には差があり、自ら考え判断して行動する力の育成という観点では、さらなる改善が求められる。

- ・継続的な登校が難しい生徒への対応を重点的に強化していく必要がある。そのために、出席状況の早期把握と個別面談の実施を徹底し、生徒の状況や背景（生活面・心理面）に応じた支援を行う体制を整備する。保護者との連携も強化し、家庭と学校が一体となって継続的な登校を支える仕組みを構築する。
- ・対面機会の不足によるコミュニケーション経験の差を補うため、スクーリングやホームルームにおいて、生徒同士が関わる活動や対話の機会を意図的に増やすことが重要である。さらに、オンラインも含めた多様な交流機会を設けることで、登校状況に左右されない関係構築の場を確保し、すべての生徒に対して成長機会を提供していく。
- ・規範指導については、単なる確認や徹底にとどまらず、「なぜ必要なのか」を考えさせる指導へと発展させることで、生徒の内面的理解を深め、主体的な行動につなげていく。
- ・自己肯定感の育成を重視し、成功体験や承認の機会を意図的に増やすことで、生徒が自信を持って他者と関わるができるよう支援する。

## 5. 学校評価結果

### 【大阪会場】



## 6. 学校自己評価—5段階評価—

### 【大阪会場】

分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営  <b>4.58</b>  生徒：4.70  保護者：4.44  教職員：4.59	教育方針に基づいた安定した学校運営を基盤とし、教育活動の質の向上と組織的な指導体制の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者が安心してスクーリングに参加できるように、安全管理の徹底や円滑な会場運営、情報発信の充実などの取組を継続して行ってきた。その結果、年間の出席率は86.2%と全会場の中で最も高い水準を維持しており、安定した学習機会の確保と高い参加意識が見られる。また、学校運営に対する満足度においても、8割以上の生徒が満足しているという結果が得られており、全体として非常に良好な運営が実現されている。</li> <li>生徒数についても適正な在籍規模が保たれていることから、教室配置や授業運営において余裕を持った対応が可能となっており、生徒一人ひとりに目が届きやすい環境が確保されている点も、本会場の強みである。</li> <li>東京会場と同様に、欠席が重なっている生徒が一定程度固定化しているという課題が見ら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の高い出席率と満足度を維持するだけでなく、その成果を持続的なものとするために、より質の高い学校運営へと発展させていく必要がある。まず、個別時間割の事前配信については継続・定着させるとともに、視覚的に分かりやすい資料の作成やICTによるリマインド機能の活用など、情報の「伝わりやすさ」をさらに高める工夫を行う。</li> <li>欠席が固定化している生徒に対しては、単なる出席管理にとどまらず、早期の段階から状況を把握し、面談や保護者連携を通じた継続的なフォロー体制を</li> </ul>

		<p>れる。該当する生徒および保護者からは少数ではあるものの不満の声もあり、個別対応のさらなる充実が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割が複数運用される中での混乱への対策として、新潟・東京と同様に、スクーリング実施の約1か月前に個別時間割を作成・配信する取組を実施した結果、生徒・保護者の理解が深まり、当日の混乱の軽減と出席率向上につながったと考えられる。</li> </ul>	<p>強化する必要がある。学習面だけでなく生活面や心理面にも配慮しながら、個別に応じた支援を行うことで、登校継続への負担感を軽減し、参加意欲の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な在籍規模という強みを活かし、一人ひとりに丁寧に関わることができる環境を維持しながら、教職員間での情報共有を一層強化し、運営の質を組織的に高めていくことが重要である。単なる運営の安定にとどまらず、生徒の主体的な行動を引き出すための環境づくりを意識し、より高次の学校運営を目指す。</li> <li>・「出席率が高い学校」から「すべての生徒が安心して主体的に参加できる学校」へと発展させ、量的な成果に加えて質的な向上も実現していく。</li> </ul>
<p>学習指導</p> <p>4.51</p> <p>生徒：4.48</p> <p>保護者：4.47</p> <p>教職員：4.59</p>	<p>主体的な学習を基盤とし、基礎学力の定着とともに思考力・応用力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導においては、生徒の学習意欲は全体的に高い水準で推移しており、主体的に学習に取り組む姿勢が定着している。面接指導時間や映像教材、課題指導を適切に組み合わせた指導により、多くの生徒が計画的に学習を進め、安定した単位修得につながっている。</li> <li>・定期的な情報発信や学習サポートにより、生徒・保護者ともに学習方針への理解が進んでおり、通信制課程における学習の進め方が定着している点は大きな成果である。基礎学力の定着についても概ね良好であり、全体として安定した学習成果が得られている。</li> <li>・課題としては、学習の質の向上という観点において、さらなる発展の余地がある点が挙げられる。現在は、計画的に課題を進めることはできているものの、「知識の習得」にとどまりやすく、思考力や応用力を必要とする学びへの展開が十分とは言えない。</li> <li>・ICTを活用した学習支援については一定の整備がなされているものの、活用が学習の質向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの「高い学習意欲と基礎学力の定着」という成果を土台としながら、<b>学びの質の向上へと指導を発展させていくこと</b>が重要である。そのためには、従来の知識習得型の学習に加え、生徒が自ら考え、判断し、活用することを重視した学習へと転換していく必要がある。</li> <li>・面接指導時間や課題において、単なる理解確認にとどまらず、「なぜそうなるのか」「どのように活用できるのか」といった問いを取り入れ、思考を深める指導を行う。</li> <li>・探究的な要素を取り入れた学習活動を段階的に導入し、生徒自身が主体的に学びを発展させる機会を増やしていく。</li> <li>・ICTについては単なる学習補助</li> </ul>

		<p>上にまで十分に結びついていない側面がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組む姿勢は見られるものの、その内容が「課題をこなす」ことにとどまるケースもあり、学びを深める意識の醸成が課題となっている。</li> </ul>	<p>ツールとしてではなく、思考を促し、学習を深めるための手段としての活用へと転換することが求められる。具体的には、映像教材の視聴に加えてアウトプット活動を組み合わせるなど、学習内容を自ら整理・表現する機会を増やし、理解の深化を図る。</p>
<p>進路指導</p> <p>4.58</p> <p>生徒：4.63</p> <p>保護者：4.53</p> <p>教職員：4.59</p>	<p>多様な進路選択を支援し、生徒が主体的に進路を実現できる力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導においては、進路決定率が80%となり、全体として高い水準で進路決定が進んでいる。進学においては、約7割以上の生徒が希望進路を実現していることから、進路指導の成果は概ね良好であるといえる。</li> <li>・就職について、希望者自体は少数であるものの、すべての生徒が希望した職種において内定を獲得している点は大きな成果であり、個別対応による丁寧な指導が有効に機能していると評価できる。</li> <li>・課題としては、新潟・東京会場と同様に、進路決定の時期が遅れる傾向が見られる点が挙げられる。特に就職希望者においては、職種や業種の選定に時間を要し、活動開始が遅れることで進路決定が後手に回るケースが見られた。</li> <li>・1年次から在籍している生徒については、中長期的な進路指導計画に基づいた段階的な指導が可能である一方で、途中入学・編入の生徒については、進路意識の形成や情報収集の機会が不足しやすく、指導の進度に差が生じている点も課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の高い進路決定率を維持しつつ、進路決定の「時期」と「質」の向上を図ることが重要である。そのために、進路指導の早期化を進め、1年次から段階的にキャリア教育を実施することで、生徒が早い段階から将来について考える機会を確保する。</li> <li>・就職希望者に対しては、職種・業種の理解を深める指導を早期から実施し、自己理解や職業理解を段階的に進めることで、活動開始の遅れを防ぐ必要がある。単に選択肢を提示するだけでなく、生徒が自ら比較・検討し選択できる状態をつくる支援へと転換していく。</li> <li>・途中入学・編入生に対しては、短期間で必要な進路情報や意識形成を補うための集中的な個別進路指導を実施し、スタート時点の差を最小限に抑えることが求められる。</li> <li>・進路指導においては、単に進路決定に至ることを目標とするのではなく、生徒が自らの意思で進路を選択し、その決定に納得感を持てるような支援を重視する。</li> </ul>
<p>生徒指導</p>	<p>基本的な生活習慣の定着を基盤とし、主体的に他者と関わ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導においては、スクーリングや面接指導時間、個別面談等を通じて、ルールや規範の確認を継続的に行ってきた結果、生活習慣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに定着している生活習慣や規範意識を土台としながら、「主体的に関わる力」と「対</li> </ul>

# 4.54

生徒：4.50

保護者：4.55

教職員：4.58

る力を育成する。

および規範意識は全体として安定しており、落ち着いた学習環境が維持されている。多くの生徒が安定した生活リズムのもとで学習に取り組んでおり、学校生活において大きな問題は見られない点は大きな成果である。

- ・面談等を通じた個別支援も適切に機能しており、生徒が安心して学校生活を送ることができ環境が整備されている。規範に基づいた行動についても理解が進んでおり、全体として秩序ある集団形成がなされている。
- ・課題としては、主体的に他者と関わる力の育成が挙げられる。現状では、生徒同士の関わりは一定程度確保されているものの、受動的な姿勢にとどまる場面も見られ、自ら関係を築こうとする力や積極的に対話を行う姿勢についてはさらなる向上が求められる。
- ・コミュニケーションの機会自体はあるものの、その多くが形式的なやり取りにとどまり、相手の考えを理解したり、自分の意見を深めて発信したりするような「対話の質」の向上という点では課題が残っている。
- ・規範意識についても「理解していること」は十分であるが、「自ら判断して実践する」という段階においては個人差があり、主体性の育成という観点では次の段階への発展が必要である。

話の質の向上」に重点を置いた生徒指導へと発展させていく必要がある。

- ・スクーリングやホームルームの場において、生徒同士が意見を交換したり、協働して課題に取り組む活動を意図的に取り入れ、「関わりながら学ぶ機会」を増やしていくことが重要である。単なる参加ではなく、自ら関わることを促す指導へと転換することで、主体性の育成を図る。
- ・コミュニケーション力の向上に向けては、対話型の指導を充実させ、「話す・聞く」だけでなく、「考えを深める・伝える」プロセスを重視した活動を行う。これにより、生徒が相手の立場を理解しながら自分の考えを表現できる力を育成する。
- ・個別面談や日常的な関わりを通じて、生徒の状況や変化を継続的に把握し、必要に応じて早期に支援を行う体制を維持・強化する。教職員間での情報共有をさらに進めることで、より質の高い個別対応を実現する。

## 7. 2025年度 学校基本データ

【学校名】新潟産業大学附属高等学校（通信制）

【所在地】新潟県柏崎市大字安田 2510 番地 2

TEL：0257-24-6644（代表）

0257-41-6010（通信制課程教務室）

【創立】1958年 新潟短期大学附属高等学校設立認可

1987年 新潟産業大学附属高等学校に校名変更

【理事長】阿部 雅明（アベ マサアキ）

【校長】藤井 泰昭（フジイ ヤスアキ）

【課程】通信制課程・普通科

【全生徒数】合計：251名

年次	生徒数
1年次	54名
2年次	86名
3年次以上	111名
計	251名

2025. 5. 1現在

【教職員数】

校長 1

副校長 1

教頭 1

教諭 3

講師 10

事務 1

【卒業生数】 卒業生 113人

【進路状況】

日本大学1、専修大学1、武蔵野大学1、昭和女子大学1、大東文化大学1、桜美林大学1、東京農業大学1、高千穂大学1、駿河台大学1、和光大学1、大正大学1、関東学院大学1、同志社大学1、関西大学1、近畿大学1、京都精華大学1、京都芸術大学1、京都先端科学大学1、兵庫大学1、神戸親和大学1、金沢学院大学1、桜美林大学1、国際医療福祉大学1、新潟産業大学12、東京交通短期大学1、東大阪短期大学1、東京みらいAI&IT専門学校1、東京デザイナーテクノロジー専門学校1、専門学校ISCカレッジ1、資生堂美容技術専門学校1、文化服装学院1、ビューティー&ウェルネス専門学校1、国際ペットワールド専門学校2、大阪医療技術学園専門学校1、国際ホテルブライダル専門学校1、ECCコンピュータ専門学校1、大阪ECO動物海洋専門学校1、埼玉医療福祉専門学校1、就職22名 他

2025年3月31日現在